



高齢者を対象とした「いきいきふれあいサロン」で開催した、長生きとかけた「長息プロジェクト」。口腔機能向上を目的としたゲームで、楽しみながら機能アップにつなげた



町内対抗で行われる「校区大運動会」。その他のスポーツ大会も行われ、地域交流の場になっている



白川校区自治協議会の中野俊夫会長（左）と、第1町内自治会の緒方正総会長（右）



方から挨拶をしてくれるようになり、「ありがとうございました」と語り、地域の人々の願いが世代を超えて浸透しているようです。

さらに、平成20年8月には、第1町内のすべての防犯灯をオレンジ色から青色防犯灯に切り替えました。これは、スコットランドで街路灯を青色に変えたところ、犯罪が減少するという効果が見られたという話を聞いて、実施したものです。熊本県内でいち早く取り入れられました。

安全安心のまちづくりが進むなかで、これからの課題が、校

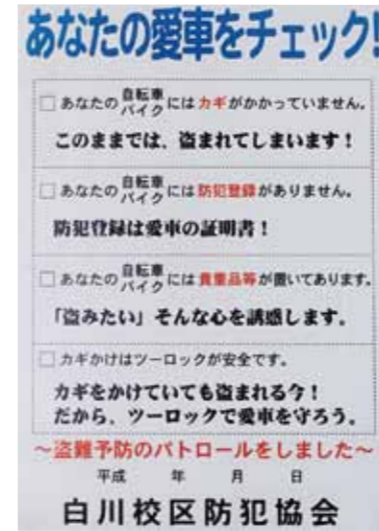
白川校区 (平成25年4月現在)
人口計: 7,235人
世帯数: 3,856世帯
町内自治会数: 12

区で増えている一人暮らしのお年寄りの安全安心対策です。毎年9月の「敬老の日」に高齢者の方々を訪ねたり、地域に住む高齢者の孤立防止を目的とした「いきいきふれあいサロン」を実施したりしていきます。また、校区の体育祭では競技後に抽選会を行い、お年寄りが楽しみに参加できるように工夫しています。

「子どもからお年寄りまで、みんなが顔を合わせる機会をもっと増やしたい」。そのことであらゆる世代が一つになつて支え合うことが、地域のみなさんの願いです。



熊本県内でもいち早く導入された青色防犯灯。今後の効果が期待されている



自転車盗難予防活動に使用したチェックカード。どんな対策をすべきかわかるように作られている



高齢者と子どもたちの触れ合いの場にもなるもちつき大会。伝統などを受け継ぐ機会でもある

り、そこに不審者が逃げ込むというような事件も起こっていました」。

そんな中、平成20年4月に「安全安心実現のための連携モデル地域」に、熊本北警察署管内で白川校区が指定されました。指定の趣旨は「交番（新屋敷交番）と地域のつながりを強めることで、交番相談員の役割を拡大し、自治会等の住民組織と一緒に防犯パトロールなどの防犯活動、交通安全活動を行う」こと。熊本県内初の取り組みでした。指定をきっかけに、地域の人の気持ちが高まり、安全安心のまちづくりへ向けた地域活動が本格化しました。そんな活動の一つが、校区内の大型スーパーと連携して実施した自転車の盗難予防活動。自転車の持ち主の意識も高めようと、駐輪している自転車一台一台に、カギや防犯登録などの現状をチェックしたカー

青色パトロール車を守る 住民の安全

ドを取りつけていきました。その後、自転車の盗難件数は減少しているようです。

モデル

地域指定で実現したのが、

青色パトロール車の配置です。「ホワイトリバーパトロール隊と命名された校区の防犯推進員がパトロール車に同乗して、九品寺地区は毎月1日、10日、20日、新屋敷地区は毎月5日、15日と25日のそれぞれ夜6時から地区を巡回しているんです」。さらに、白川小学校児童の下课時間にあたる午後3時から5時には、児童への「声かけ運動」も行うようになりました。

緒方さんは「町内の人たちには、ぜひ子どもたちに声をかけてくださいと呼びかけています。そうするうちに大人も子どもも顔見知りとなって、児童たちの